

## 135R共同研究室終焉のころ

松原啓介

地理学教室創設50周年おめでとうございます。我々が卒業してからも既に14年がたっており、その間の環境の変化、大学の変化、学生気質の変化だけでもびっくりするほどのものがあります。私個人は仕事柄、また現役当時所属していた鉄道研究会のOB会の会長を現在やっていることもあり、今でも年に4～5回は学生みたいな顔をして大学へやってきました。地理の共同研究室が開いている時に観ている、居並ぶパソコンの群や、クーラーの風に隔世の感を禁じえないわけです。

昭和61年卒業のメンバーの母体となる昭和57年一部入学組は、私、平井、鈴木、土田という男女2人ずつのメンバーでした。これに上の学年から降ってきた中野氏を加えて、5人で教室の行事を一緒にやっていくことになりました。も一つ言えば何処にか潜伏していて、はるか後年に現れた丹羽君も同じ年の入学でした。どうくくっても普通の人には1人もいないという曲者揃いのメンバーでアカデミック度はともかく、面白おかしく専門時代を過ごしたものです。

当時の共同研究室は、文学部棟の135Rで隣の133Rが院生室。専門上がりたての2回生の頃は、専門での授業も少なくまた教養の方で、文学部のイベントで盛り上がるのに忙しくてあまり研究室に顔も出さず、たまに用事で入ったら、先輩方が小難しい顔して調べものしたり、製図したりしてる。「なんて陰気で雰囲気悪い部屋なんだ！」ってんでますます足が向かなかつたのが、3回生になってみると、我々の学年以外の人間が誰も来ない状態になっていて、たちまちサロン化してしまい、昼休みに炊き出し始める、他専攻の学生は遊びに来る、のど自慢は始まる、先生方院生方の物まねし過ぎて自分の声は見失うの騒ぎっぷりに始めは不愉快気だった、隣の院生各氏もそのうち巻き込んで毎日お祭り状態。5人の名前前の頭文字をとって「あすまけたノート」と名付けた連絡ノートという名目の落書き帳を置いて、誰でも好きなことを書いてもらって、一種のコミュニケーションを図るための道具にしたりしていました。聞くところによると今頃の学生諸君は用事がある時にしか研究室に顔を出さないことが多いんだとか。研究室がサロン化することについては「研究室というからには学問をする場所なのであって、くつろいだりしゃべったりするべき場所ではない。」との論理が昔から根強く言われているようですが、少なくとも教室内に快適な「空間」があることにより、そこへ学生や先生いろんな人が頻りに「往来」し、さまざまな情報を「交換」することにより、自分にも他人にもあるいは教室全体にもよりよい「発達」が生まれるのではなどとも思います。

135Rの共同研究室は我々が卒業した翌年度から409Rに移りましたが、我々が仕掛けたこの研究室サロン化の悪習慣？はその後5年ぐらい続いたそうです。その年から始まり、昨年まで毎年欠かさず行われている平野先生主催の地理学教室準公式行事「互助ダムパーティー」の開催も、最初のきっかけは研究室での雑談からでした。現在あの時代とは比べものにならないくらい環境が充実した研究室を、より楽しい、より居心地の良い、そしてちょっぴりより学術的な空間にして、よりたくさん人の交流が生まれればなんて思います。

最後に135R研究室ラスト2年間にあった、エピソードを列記してこの稿を終えたいと思います。「地理学教室グリコ犯人説事件」「今井町僕の家です事件」「大学祭醍醐魂提灯で闘魂アイスクリーム事件」「別巻あすまけたノート「まぬけ」事件」「井倉洞服部先生「君落ちなさい」事件」「新見取

便器に財布事件」「新歓コンパブルーライトヨコハマ激唱事件」「卒業アルバム替え玉事件」「各先生登場文学部ソフトボール大会個人賞総ナメ事件」「翁島荘「オレの酒！」事件」「服部黄門「有罪だっ！」事件」「明光荘火事場泥棒と天罰事件」「22:00暗闇トイレ事件」「卒業直前単位不足宣告事件」。個々の内容についての問い合わせは筆者の方までどうぞ。

なお、今年も平野邸の裏庭、五助ダムのパーティーは12月23日の予定です。老いも若きも挙ってご参加下さい。私も14回連続出場目指してJR住吉11:00登場の予定です。

(昭和61年卒業)

